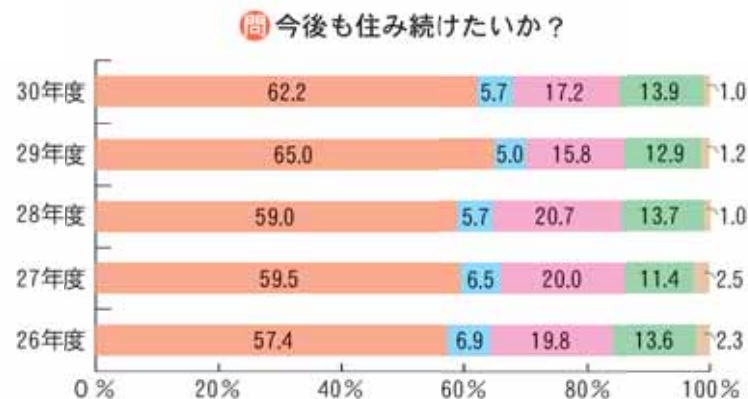


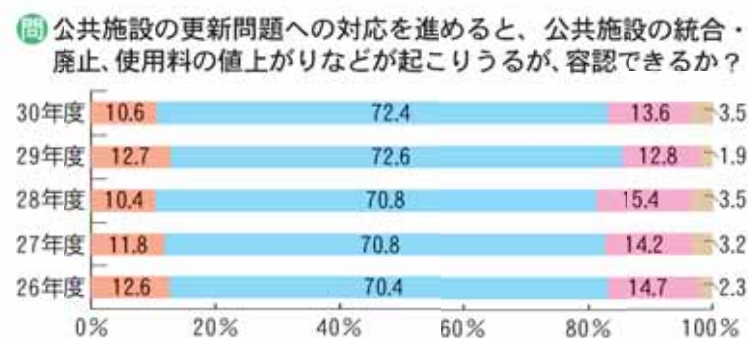
居住 約6割の人が「今後も住み続けたい」

今住んでいる場所に「住み続けたい」が約6割と最も高くなりました。「市内の他の場所へ移りたい」と合わせると、市内に住み続けたいと答えた人は約7割となります。他の場所に移りたいと答えた人の理由の中では、「公共施設や大きな商店がなく生活に不便だから」が最も高く、全体の5割となっています。



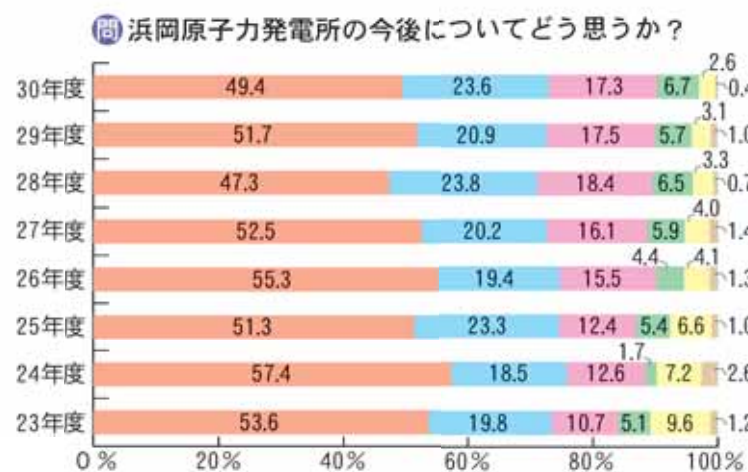
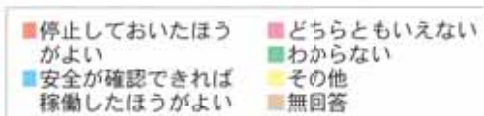
公共施設 更新問題への対応を8割以上の人が容認

公共施設の更新（老朽化）問題への対応を進めることについて「ある程度まで容認できる」が約7割と最も高くなっています。容認度（「容認できる」と「ある程度容認できる」の合計）は8割以上を占めています。



原発 約半数の人が「停止しておいたほうがよい」

浜岡原子力発電所の今後については「停止しておいたほうがよい」が49.4%で約半数を占めています。次いで「安全が確認できれば稼働しておいたほうがよい」が23.6%となっています。「その他」の中には、廃炉などの意見が1.3%含まれています。



市の行政サービス「市の取り組みに対する満足度・重要度について」

「市の取り組みについて満足しているか」「その取り組みが重要であると考えているか」との57項目の設問に対して、満足度が最も高かった取り組みは「こども医療費制度」で、次に「幼稚園・保育園・認定こども園等の充実」と続いています。重要度が最も高かった取り組みは、今年から「こども医療費制度」となっており、次に「震災・火災・水害・浸水対策への取り組み」と続いています。

市民意識調査

住みたい・住み続けたいと思えるまちの実現に向けて

7割の人が 幸せを実感

市では、市のさまざまな取り組みに対する市民の意識を把握し、事業の達成度を確認するとともに、今後の市政へ反映させることを目的として「市民意識調査」を平成19年度から実施しています。今年度の第11回目の調査結果がまとまりましたので、一部を掲載します。詳細は、市ホームページに掲載し、榛原・相良庁舎の情報公開コーナーに配架しています。

http://www.city.makinohara.shizuoka.jp/bg/shisei/ent/935.html
問い合わせ 秘書政策課 池田 ☎0052

～ 調査の概要 ～

調査対象：市内在住（市内に住居票のある人）の16歳以上の男女
調査方法：無作為抽出による郵送配布・回収
調査期間：平成30年4月27日～5月11日
発送数：1,396通
有効回収数：796通 有効回収率：57.0%
*端数処理の都合上、また、複数回答のため、合計が100%にならない場合があります。

暮らし 約7割の人が「幸せだと思う」

「幸せだと思う」（「大いに思う」と「ある程度思う」の合計）が約7割となっています。幸せだと思う理由として、「健康であるから」がもっとも多く、「家族や友人との関係が良好だから」「住まいがあるから」と続いています。



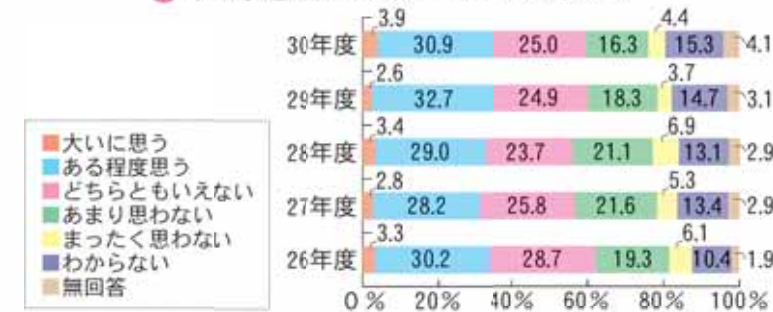
問 今現在、幸せだと思うか？



子育て 「医療機関の充実に取り組むべき」が約7割

牧之原市は「子どもを産み育てやすい環境だと思う」（「大いに思う」と「ある程度思う」の合計）が約3割となっています。子どもを産み育てやすい環境にするため、市が取り組むべきこととして、「小児科や産婦人科など医療機関の充実」が約7割と最も高く、「子育てに関する経済的支援の充実」「親子で遊べる施設や公園の整備」と続いています。

問 市は子どもを産み育てやすい環境か？



問 子どもを産み育てやすい環境にするため市が取り組むべきことは？

- ①小児科や産婦人科などの医療機関の充実 (68.6%)
- ②子育てに関する経済的支援の充実 (44.0%)
- ③親子で遊べる施設や公園の整備 (33.7%)
- ④地震・津波など災害対策 (22.7%)
- ⑤一時的に子どもを預かる施設 (18.6%)
- ⑥教育・文化水準の向上 (16.7%)
- ⑦地域で子どもを育てる意識の向上 (15.2%)
- ⑧悩みごとを話せる相談窓口の充実 (14.8%)
- ⑨子育てについての積極的な情報提供 (8.5%)
- ⑩無回答 (5.2%)
- ⑪その他 (2.5%)